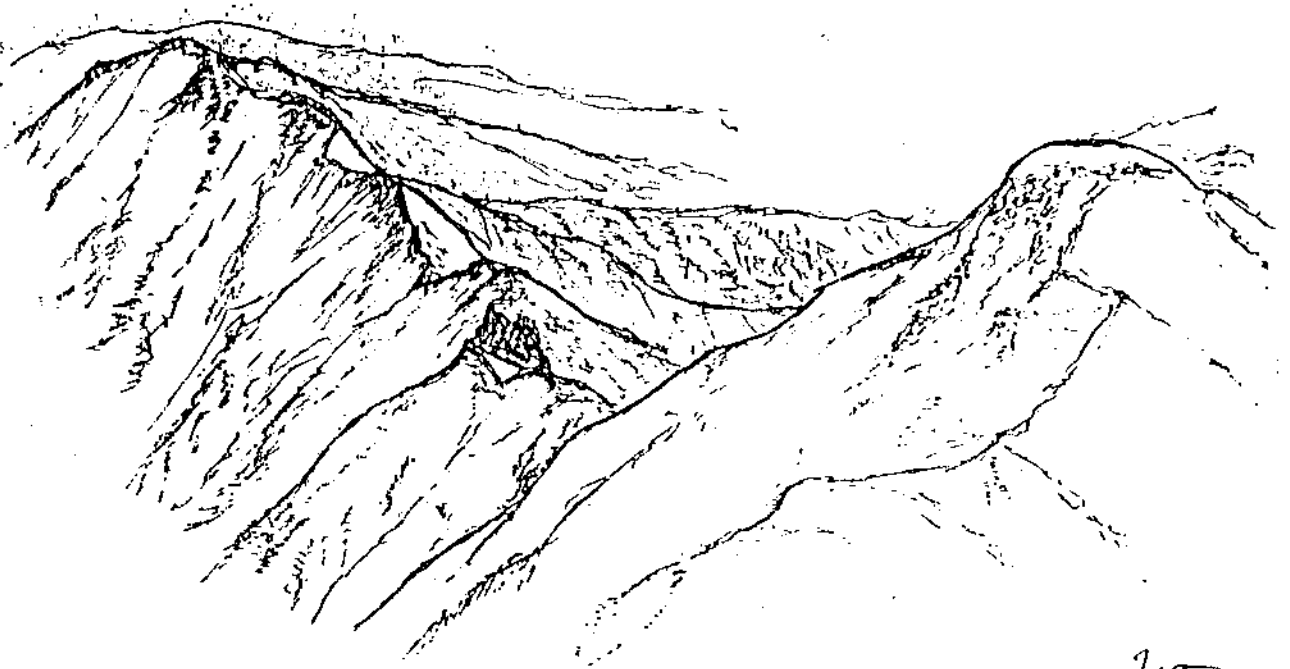


'92 春山合宿 報告書

爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳



鹿島槍南峰より五竜岳方面

yo

4・29～5・3

CL. 板倉 SL. 大矢

藤田勝 手嶋 高橋

日本電装KK. 電友会山岳部

「92. 春山合宿を振り返り」

今日、ルート選定を含め、軍事委員会以外のメンバーも入山全員で計画を立て、春山合宿に臨みましたが、私自身、最後までルートの把握をしっかりとしきれていなかったこともあり、ルポリの緊張した入山を向えました。

いざ入山すると、数多くの反省点のある山行となり、大きく見ると「既点でもあった」。

1. 参加メンバーの雪上及び岩稜歩行技術と、今回のコースがあっていた。
2. ガイルワークのスピーディさ。

の2つがあげられると思います。

まず、歩行技術については、当初からガイルでカバーし、経験を積ませる目的もあったが、コース設定と我々の能力も上であつた為、時間がかかりすぎた。コースの知識としては、私自身の3年前の夏ルートで、資料不足(集める努力が足りなかった)を通称に感じた。実際、今回コースは、予想以上に難しかっただけに、自分達以上のレベルの積雪期ルートを行く時には、少なくとも一年前に夏ルートをしっかり観察する必要性を強く感じた。そのためには、部の活動計画をもっと長期的に、つまり来年、再来年という先を見据えた計画の元で活動すべきであるという結論となる。

又、ガイルワークは、一言で言うと、経験不足である。合宿の前になら練習を積んでおきたらよかったと思つたが、場内が凍るとは予想が出来ない。これは、今後の山行の中で併用して行き、経験を積み上げていきたい。

その他、行動食の点でいうと各自の食料工夫が見られなかったが、補給のポイント等、今回の失敗(ガス欠)を今後の山行の教訓としていきたい。

しかし、目標とするコースの克服出来なかったが、引き返す判断と時間がかかたが、ガイルワークを多く使用したことは、今回のレベル等と考えると、手が出ていないと思える。

又、若手も、自達の可能範囲内で働き、プラスおたといえる。今回、目的であった中堅ワグスの育成という点においては、充分達成できたのではと思われる。

中野、手島、高橋は、テント内の生活においても、スピーク行動できていたように思われ、今後、期待できると感じた。

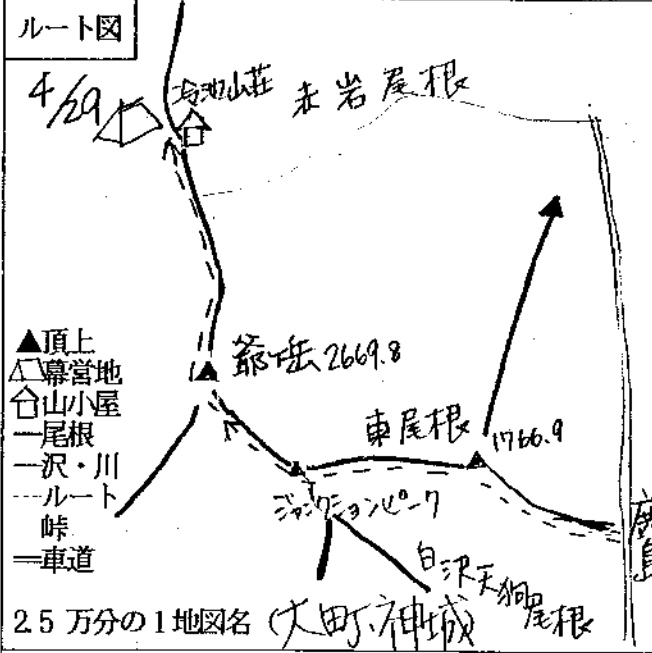
最後に、今回の合宿が、我々は計画の大切さを今まで以上に強く感じたと思う。この教訓を今後のワグズ運営に役立てていきたいと思っております。

留守部員の方々、差し入れをいただいた方々にこの場を借り、参加メンバー一同、お礼申し上げます。

手島

92年度 春山合宿報告書

山行日 92年4月29日(水) 天候 (晴) 記録者 板倉



コースタイム

信濃大町 5:30-
7:05 「200」 7:16
7:00 鹿島山荘 6:30
9:20 「1760」 9:35
12:40 ジャンクション Bパーティと交信
13:40 爺ヶ岳(中峰) 1400 頂上に乙合流
15:15 冷池山荘

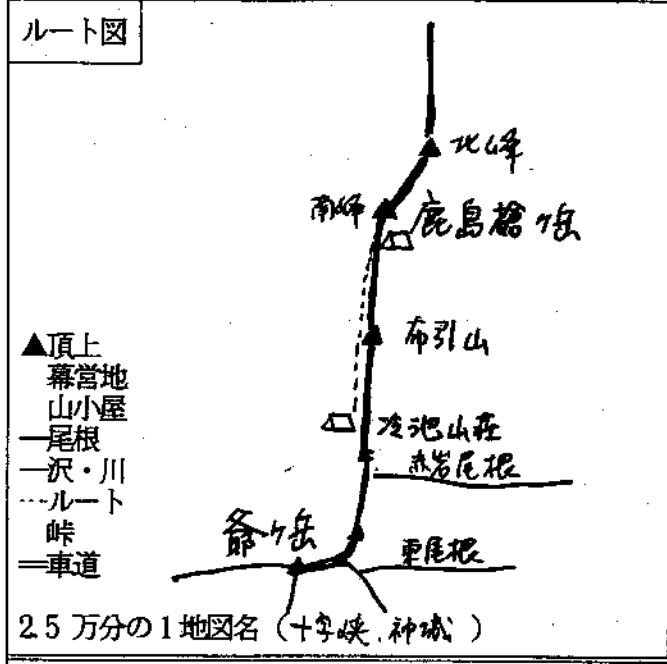
● 雨の中ハカ着深
① 晴ハカ暑カハ
1400m付近ハ雪

<報告者所見> 鹿島山荘へ着くと、おげさんが「甲でお茶でも飲んでほしい」といわれるので、おげさんに。山荘からのルートは、立派な標識があり直ぐに進むことができた。東尾根への取付きは、山荘裏の堰堤沿いの急登から始まる。30分も進むと急登の苦しさ、晴ハカした為暑くなり、全員カッパを脱ぐ。ルートは自体は踏跡もしかりとしており歩きやすい。想像していたヤブもそれほどなく進むのには支障のない程度だ。1400m付近から雪があり、東尾根へ上がると雪の尾根に変わる。この辺りからは陽春の日差しを浴びた爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳の東面とマラヤヒダが輝いている。尾根には先行Bパーティのトレース(3人組Bパーティ)と昨日入山の芸大6人のトレースがしっかり付けたので、歩行も楽だ。ジャンクションへ登る手前一部ヤセた所を除き、ルートを問題なく通過していく。ジャンクションへ登り、尾根上でBパーティと交信成功。彼らの歩いている姿が目に入った。今日は合流できたのも思っていた。我々は、びくりと喜びの声を上げる。頂上へ着くと東尾根を登ってきた15～6人で賑わう。同時に南峰に着いたBパーティを待ち合流し、冷池山荘へと向かう。立山剣を眺めながらの歩行はいつでも良いものだ(特に積雪期は良い)。小屋へ着き、テントを張り、明日からルートの事を考えつつ、一日を終える。

92年度 春山合宿報告書	山行日 92年 4月 30日 (木) 天候 (☉)	記録者 手嶋
ルート図 	コースタイム 3:00 起床 5:00 冷池山荘発 6:00) 布引山 10)) 6:50) 鹿島檜岳 南峰 7:15)) 9:15) 北峰トラバース 取り付き手前 20)) 10:40 鹿島檜岳 南峰 11:20) 布引山 30)) 12:05 冷池山荘着	

〈報告者所見〉 さて、本日はいよいよ今合宿のメインとなる日である。
 一日分の行動食をポケットにつめてみ 気を引き締め出発した。天候は
 最初くもり空であったが布引山を通過するころには雪が降りだした。さらに
 鹿島檜岳の登りでは風が強くなってきた。南峰ピークでヘルメットとゼルベスト
 を装着し小休止。この先待ちうけている数々の難関を想像すると寒ささえも
 感じず、ただ黙々と行動食をほおぼるだけだった。ピーク直下からはさ、その
 フィックスザイルである。強烈な風の中、確実な足どり一歩一歩進む。
 風が下から吹き上げて雪が舞いあがり顔に当たる。私はメガネが曇るのが
 怖かったので、目出帽を付けながたが、それが逆にメガネフレーム内をガチガチに
 凍らせることになり、前がよく見えない。さらに顔も痛いという最悪の状態になった。
 前を行く大矢さんの赤いヤッケの輪郭をたよりに ゆくり歩いた。やとこのことで
 北峰トラバースの取り付き手前(看板がある)に着くが、南峰からは2時間も
 かかっていた。板倉リーダーより、前線通過にともなう強風と視界が悪い、との
 ことで本日はここまでとし、撤退することにした。来た道に戻るのだが、
 トレースはあとかたもなく埋まっていた。ルートを確認しながら Bパーティの
 いる冷池山荘まで帰る。気温高く、雪から雨に変わっていた。
 テントに入って今までの緊張が抜けたる眠くなってきた。
 ボリュームたっぷりのスパゲティを食べて、絶好調の眠りにつく。

92年度 春 山合宿報告書 山行日 92年5月1日(金) 記録者 藤田
 天候(雪)



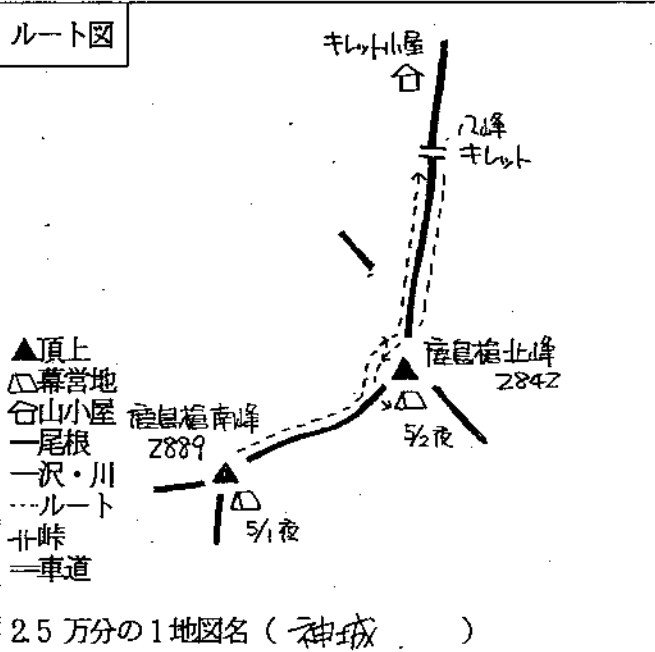
コースタイム
 3:00 起床
 5:25 冷池山荘出発
 7:15 布引山頂上
 8:25 鹿島檜ヶ岳南峰
 } 頂上にテントを張る
 10:10 テントの中に入る
 12:37 北峰3丁のルート偵察
 13:20 北峰下部
 14:30 テント着

〈報告者所見〉 本日下山予定のB10-テに見送られ 5:25 冷池山荘を後にし、再度鹿島檜ヶ岳を目指す。昨日から降り続く雪で出だし1時間程はヒビ下まのラッセルをする。凍った雪の上に湿雪が積った雪質なのでつぼ足の登り斜面ではすべりやすかった。信州側の雪庇に注意しながら布引山まで歩を進めた。布引山でアセンを着け、鹿島南峰までは棒小屋沢から吹きつける強風を背に受け急斜面を登る。大矢は目出帽から露出したほっぺの一部が白く凍り凍傷の兆候を見せていた。鹿島南峰着 8:25。頂上は視界も悪く本日の天候回復を望めるので明日の天候回復を待つことにして風の弱い頂上でテントを張ることにする。

午後から校倉、高橋、藤田の3人で鹿島北峰直下までルートの偵察を行う。鹿島北峰のトラバースは80%程先の中間点までは確認できたが、その先はガスの中で見えるから。その時折視界がひきけると正面に鹿島北峰の頂上らしき物が黒く見えた。その場でガスの晴れを待つ20分程待ったがいっこうに晴れる気配がないのでテントに戻ることにした。

92年度 春山合宿報告書

山行日 92年5月2日(土) 天候(晴れ) 記録者 高橋



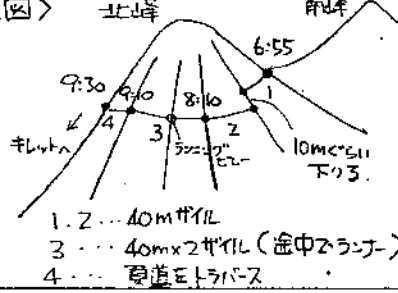
コースタイム
 6:15 鹿島槍南峰
 ↓
 6:55 北峰トラス口
 ↓
 9:30 トラス終了
 ↓
 13:15 八峰キレット
 ↓ (検討)
 13:45 引き返す
 ↓
 19:00 北峰着

2.5万分の1地図名(神城)

<報告者所見> 5/2(土) 晴れ 2日間にわたる足止めをくらわされてくわ天
 天気も今朝は、とてもの。目指す五竜、高松がくさりと雲を見せ、闘志を
 きたてる。横で剣も応援している。さびしい昆布茶煮付けを食べて6:15
 出発。長い1日にたどり着くのである。昨日、昨日と歩き、おぼろげな北峰までの
 道は、おと片づけ6:55北峰のトラスの取り付き口へ。ギールを出して、
 トラスにかかる。雪質はバスタ(せと思ふ。)二のあたり、日陰がでじりしていると
 寒くイヤだ。全部で3ギールを使う。(右図参照)

二の間約2時間半、たいてい時間をくう。北峰へ

<図> 下りは左図の通り4回
 ギールを使う。3時間後
 ようやくキレットをのぞく。
 さらに2本使ってキレットの取り付きへ。(下りははいかい)
 二の時右手の視界にキレットが入り、腰がたがってしまふ。
 けつはそれに想像以上で手の出しようがない感じ。
 30分検討して引き返す。19:00北峰着 整地し
 設置したテントにもぐり込んだのが20:00。14時間の
 格闘にドリアドをうつ。疲労感と、八峰キレットの
 強烈なインパクトによる興奮とが奇妙に混じりつた眠りにつく。



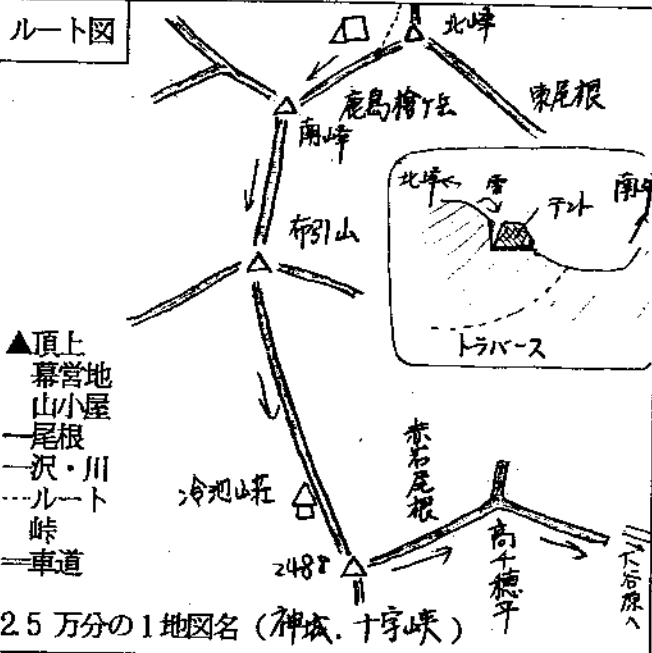
- ① 大き石の
まわりの泉!!
- ② ビレ-箇所を
見つけたので
板倉を再び
- ③ ①と②は
連続して、
水は横雪だ。
- ④ 特に問題なし
- ⑤ ぐるぐると大きく
まわっている。
直降はあり
た。...

92年度 春山合宿報告書

山行日 92年 5月 3日 (日)
天候 (①晴②)

記録者 大天

ルート図



コースタイム

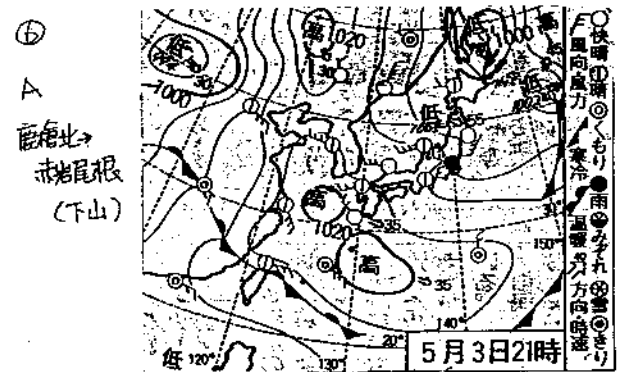
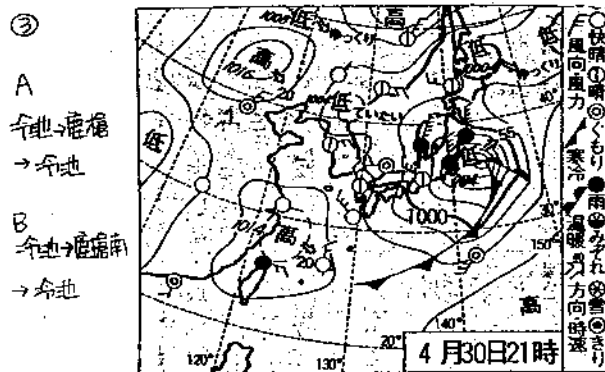
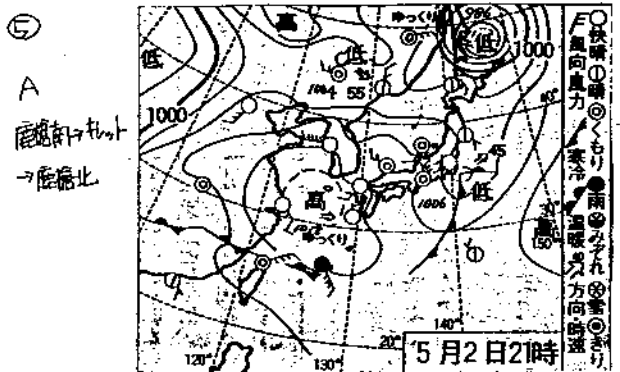
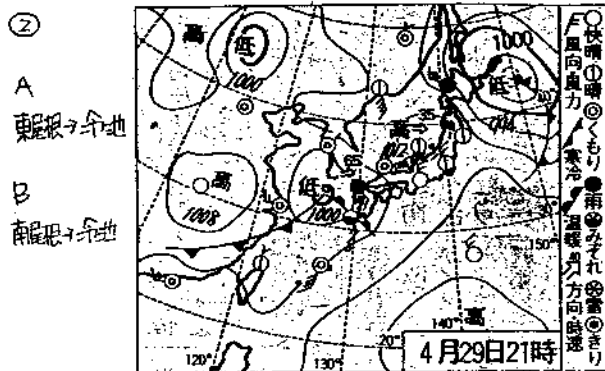
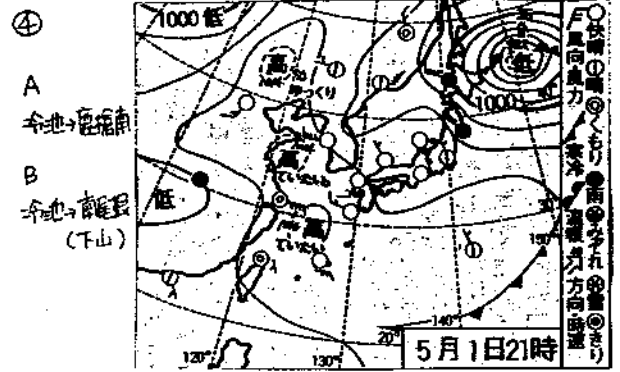
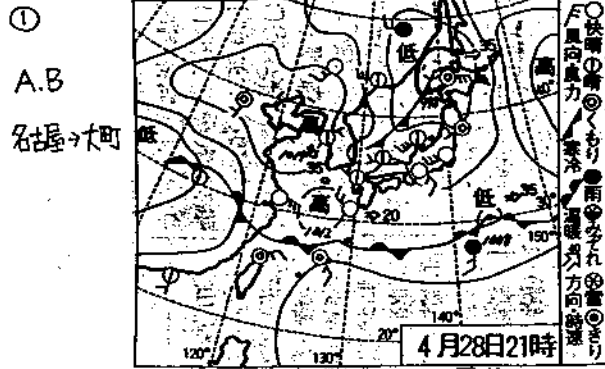
- 5:00 起床 雪でテントがつぶれたのでおかしに起きる。
- 8:00 北峰(バス終)地点のテント巻
- 8:45) 鹿島槍南峰 沢山人が落ちてく
- 9:10)
- 10:15) 2488 赤岩尾根 取付
- 10:30)
- 11:20) 高千穂平
- 11:45)
- 13:00) 林道 (西俣出合)
- 13:15)
- 13:55 大谷原

<報告者所見>

朝 起きたら テントの天井が昨日より低くなっている。変だぞと思、て見ていたら、見ると天井が下がってて、これはヤバイと皆飛び起きるが、私は頭が天井につかえて起きる。千嶋君に引張ってもらった。外に出ようとした途端、"ポキッ"とポールが折れる嫌な音をした。まさかここは吹溜りで、昨日降った雪が斜面の上側からテントを圧迫していたのだ。仕方なく、除雪した後、5人の人間ポールをこめて、朝食をとる。朝は風が強く、今日は天気良くあつちと思、っていたら、J・Tカスロ晴れ、剣ヶ鼻を現出した。折れたポールと破れたフライを回収して、8時出発。板倉君と私のみアンダーソンし、南峰の最後の登りでフィックスする。昨日の疲れが残っているのか、頭がクラクラしたので、トップを板倉君にお願、いた。鹿島槍南峰に着く頃には、風も次第に納まり、良い感じになった。連休なので人が次々と登ってきて、我々が作ったテント場の下口は、良い風よけの場所になって、人がじんじん寄ってくる。ここは当分の間、皆の憩いの場となるであろう。ここからはもうトレースバトン舗装道路である。2488から赤岩尾根の冬期ルートである急斜面を慎重に下ると、高千穂平は色とりどりのテント村である。ヤセ尾根に注意し、所々クリセド(尻セド)を攀じりながら、林道に出るとおはは、大谷原で恒別のレストである。完走はできずかたが、充実感の残る合宿の疲れを温泉で流した。

天気について

1. 天気図概況



2. 解説 & ポイント

4/29 朝小雨が降るもののその後1日快晴。4/30 ②の九州西の高気圧が
 時速65km (気象情報では70kmと112km)で襲いかかり、あという間にガスが出て
 悪天候。Aは糸地、鹿嶋北峰の糸地山荘まで戻る。その夜の予報でも寒気団が
 発生し本州へ上陸。“糸地山荘”で天気不安定と告げる。(③参照) その夜積雪。
 5/1 雪、ガスで天気悪い。③と④を比較して見ると高気圧が停滞してしまっている。
 せいぜい下界は天気は良さそう。山の上だけに影響が弱まっているのか？
 5/2 快晴。5/3 同様に快晴。

— 各担当からの所見 —

（ 装 備 ） 手 嶋 記

・今合宿で気付いた点

1. ポリタン

（取手の部分から油洩れがあった。
 注ぎ口と注入具との間にスキマがあり、注入時、そこから油がこぼれる。
 →これは事前にチェックをしたのだが、もっと細かくチェックする必要がある。

2. コンロ（コールマン ピンクワン）

今日が初めての使用だが、出力調整がやりにくく、弱火において炎が安定しない、
 という点があげられる。また、ポンピング（加圧）は決められた回数以上（硬くなるまで）
 やる必要があるようだ。

これは、まだ使い慣れていないせいもあると思うが、今後このコンロの特性を知れた上で
 使いこなしていきたい。

3. テントの袋

今日はテント袋は初日以外使わなかった。（ビニールに入れた）

テント袋の理想としては、テントが凍った時の入れやすさや、パッキングのしやすさを考えなければ
 ならないが、どんな袋が良いのだろうか？

・今合宿で破損した物

1. フライの破れ
2. ホールの折れ
3. ホール袋の破れ

※ ホールの折れについては、今回のテースは仕方のない状況であったといえるが、もし最終日まで余裕がたらず、かいた事になっていた。良い経験(?)にもなったが、今後二度とないようにしたい。

（ 食 料 ） 高 橋 記

食料の記録を左表に示す。

	メニュー	材料 (1人あたり)	備考
4/9 (水)	夕飯 ポトフ	大米(1.5合), リーゼージ(3本) ポトフ(150g), ジャガイモ(中3/5個)	みじん切りにした。
4/30 (木)	朝 洋風ごはん (ごはん+ポトフ+卵)	ごはん(2/5本), コンシメソフ素(物同) キャベツ(2枚)	コンシメソフ素(1箱)
	夕飯 シチュー+ポ マッシュポテト	ズッキーニ(150g) 野菜ミックス(40g) マッシュポテト(40g)+バター(2g) 塩少々	11/27のコンシメソフ素(60) 5人で1箱だと少し足りなかった。
5/1 (金)	朝 カウどん	お粥にカウどん(1/29+4/5コ) ほうれん草(40g) もち(1コ) * 個人持ちを追加!!	ラーメンの粉は別にうどんは既出でいいと思う。
	夕飯 すき焼き丼 お粥	大米(0.9合), すき焼き肉(1箱) しじみ汁素(1コ)+わかめ(1g)	ポテト(2箱/5人)をみかんに食べる
5/2 (土)	朝 お茶漬け	大米(0.6合) ご飯(1箱/5人) すけ茶漬の素(1袋)	
	夕飯 チャーハン 中華スープ	大米(0.9合) コンシメソフ(1箱/5人) チャーハン素(1箱), 野菜ミックス素(1箱) +バター(2g)	コンシメソフ(0.5)+わかめ(2g)を飲む。
5/3 (日)	朝 和風ごはん	大米(0.6合), ほうれん草(40g) 野菜ミックス(40g) うどんスープ(4箱/5人)	

※ 2人他に付、コーヒ(1本/5人)とミルク1本を消化。

※ 余り持ち帰ったものを下記の通り

- コンシメソフ素(60)
- コーヒ(2本), 野菜ミックス(1袋)
- ごはん(1袋), わかめ(1袋)

① 1人分、1食あたり約300円。

② 今回ゴミの出ないよう、又

余り湯を使わず、洗剤も使わずに
 できる限り、衛生面を指して
 工夫、努力したのが良かったと思
 う。心配してはいる量に比べても
 二のくらいいかや少ない方が

92年度春山合宿

会計報告 (Aパーティー)

相大生

[収入] 1人 21,000円 徴集 $21,000 \times 5 = 105,000$
 個人負担 高橋 4,552 + 千嶋 2,550 = 9,602
 中尾 2,500 計 114,602

[支出]

食料	ヤチ大買出し	7,640	
	α米	2,420	* (高橋 代替)
	乾燥野菜 (7/1-2/1)	2,132	* (")
交通費	刈谷 ~ 名古屋 JR回数券	1,456	(364円 × 4人)
	名古屋 ~ 信濃大町 JR乗車券	19,050	(3,810円 × 5人)
	" JR指定席券	12,750	(2,550円 × 5人)
	信濃大町 ~ 辰島 タクシー	3,610	* (千嶋 1/2 負担)
	大谷原 ~ 信濃温泉郷 "	2,930	
	信濃温泉郷 ~ 信濃大町 "	2,380	
	信濃大町 ~ 刈谷 JR特等	16,880	(4,220円 × 4人)
	" ~ 名古屋 "	3,810	(3,810円 × 1人)
	松本 ~ 名古屋 JR特等特等	10,300	(2,060円 × 5人)
その他	ウイスキー	1,979	
	飲食代 (4/28 名歌)	10,021	
	テニ場代 (4/29-30 冷池山荘)	5,000	(500円 × 5人 × 2日)
	留守本部 みやげ	1,000	4/30 中尾 代替
	スライドフィルム 現像代	2,200	

計 105,558

$105,558 \text{円} / 5人 = 21,111.6 \text{円/人}$

[精算]

板倉	}	$21,000 - 21,112 = -112 \text{円} \rightarrow 112 \text{円 徴集}$
大藤		
藤田	}	$-112 + 4,552 = 4,440 \text{円 back}$ (α米, 乾燥野菜)
高橋		
千嶋	}	$-112 + 2,550 = 2,438 \text{円 back}$ (名古屋 ~ 信濃大町 乗車券)
中尾		
中尾		2,500円 back

今合宿を振り返って

今合宿は、久いぶりに入山前の緊張感の高い山行であった。現状のレベルで出来ることは、全てやったが、まだ「十分だ」という確信を持ち入山したわけではなかったからだ。

又、個人的に言えば、後立山連峰は、ルートから見える景色、山容等特に好きな山域であり、今合宿は満足したルートであった。しかし、結果としては、全行程を行くことが出来ず、再度レベルUPしたメンバーで計画したい。
板倉

今合宿の一番の反省点は、コース調査の担当として今回のコースに対する認識が甘かったということである。ザイルワーク等のトレーニングは事前にかかり出来たと思っていたが、それも自分の抱いていたイメージのワークを越えるものではなく、実際の今回のコースに対してはまだまだであった。第二に、下痢等で体調を少し崩し、自己管理が甘かったと思っている。また、行動食の補給については、まだまだ検討の余地がある。(凍て着かずに持ちこたえるものがある等) 4日目の様に行動が長く、またグツと下りて休めたい時は、18時30分のように簡単に寝てしまえばいい。全体としては、完走できなかったが、自分の山行技術の向上という点の裏には充実した合宿だったと思う。

オーバーロード(過重負荷)がトレーニングの基本原則であると言われている。すなわち質的・量的にある程度以上の運動刺激が続いてこそはじめて有効なトレーニング効果が得られるのである。

今回の鹿島槍ヶ岳から五竜岳の行程は我々のパーティにはまさにこのオーバーロードがあてはまるのではないかと。走破こそ出来なかったが全員が持つ力を出し切って挑んだことにより、山からいろんなことを学び・経験することができた。(藤田)

入山前の準備でできるだけのことや、その結果私の弱点とされていた食事と睡眠においてパーフェクトにこなすことができた。食べて眠ることができたおかげで体調を常にベストの状態にもっていくことができ、個人的には一皮もけたような気がした。

山へ行くと賢くなる。このところ痛感している言葉だが、人間困れば困るほど進歩があるというもので、今合宿で得たものは多かった。例えば、次に入山する時はメカネも改良されるはずだし、行動食も工夫が加えられていることだろう。また体力も技術もUPしていくに違いない。
山へ行くたびに、ひとつひとつ私は賢くなっていく。
手嶋

今回の合宿で初めて5日間という長期の山での生活を体験した。
1日たりとも退屈しない充実した毎日で、反省点も含め、学んだことが数多くあり、計画通りにかかたものの満足し得る有意義な合宿であったと思う。
主な反省点、良かった点は以下の通り。反省点▶①全コースにおける知識不足。
②合宿での心構え不足(旧目影響)良かった点▶①積極的に行動できた。②食事。
かしまり
たかほし